

## 前回協議会における各委員からの意見（概要）

項目	意見の内容（概要）	委員名
計画全体	今後6年間の大きな変動を見越して、国分寺市における障害者の生活をどのように支援していくのかという点で考える必要があり、共生社会の実現、インクルーシブということが非常に大きな課題となってくる。	柴田委員
療育・教育	幼児期の保育所での統合保育が十分進んでいない。	柴田委員
	特別支援学級が市内のおよそ3校に1つということで配置されているが、ずっと増えておらず、設置校の中で学級数が増えているという状態である。基本的に子どもの時代から共に育ち合うということが、本当にお互いに理解し合う基盤になっていくことから、特別支援学級の配置についても見直していかなければいけないのではないかと思う。	柴田委員
	障害のある方が地域指定校に行こうとしたときに、学校側に支える地盤があるのか、それが計画の中にきちんと盛り込まれるのか。	宮崎委員
医療的ケア	学校が終わった後、放課後等デイサービスを利用すれば、帰ってくるのは夕方6時頃だが、医療的ケアがあると、帰りの時間が非常に早くなって、3時台に帰ってくことになる。このように全く生活状況が変わってしまう場合でも「自分らしくいきいき」というのは、難しいと思うが、どのようなアイデアで補っていけるのかといったところが、計画の具体的な内容になっていくのかと思う。	宮崎委員
余暇活動	高校生までは、放課後等デイサービスを利用しているが、学校卒業後の夕方の支援は不足しており、日中一時支援や余暇支援事業など様々な検討が必要かと思う。	柴田委員
生活環境	グループホームは増えてきているが、重症心身障害の方、高度障害の方、また精神障害の方でも安定的なグループホームが必要という方など、支援度の高い人へのグループホームはまだまだ足りていないため、今後の長期計画の中で見ていく必要があるのではないかと思う。	柴田委員

項目	意見の内容（概要）	委員名
地域包括ケア	障害のある人も、高齢者も、子どもも包括的に地域の中で支え合えるような、そういう仕組みづくりが今後求められているのではないかと思います。そういう視点での連携を今後6年間で強化していったら、小さなコミュニティでの支え合いが必要になると思う。	柴田委員
保健・医療 理解促進	知的障害のある方が一般の医療機関にかかる際、医師の指示を理解できないために、医療を十分に受けられないことがある。障害のある方が地域で暮らすためには、一般の医療機関に安心して通うことができる体制が必要となるため、医療機関に対する障害理解促進など何かできるという。	中西委員
基本理念	障害のある人もない人も必要なときには支え合う社会こそポイントで、障害のある人とない人に二分化する表現は古いと感じている。 いわゆる支援の必要な人に、公的にもシステムの的にも、そして個人的にも支え合うような社会というのは、障害者だけではなくて、社会全体を巻き込んでいけるようなまちづくりが必要になる。	松友委員
	障害のない人が障害のある人を支えているから、生きていけているのだという考え方とは、決別しなければいけないと思う一方で、世間ではそのような考え方が浸透していない部分もあると思うので、お互いに支え合うのだということが分かりやすく書いてあるというのはいいいのかなとも思う。	中西委員
	基本理念に込められている意味を注釈等で表現してもいいのではないか。	大塚会長
	基本理念に「自分らしくいきいき」という表現が入っているが、計画の具体的な内容にどう結び付けていけるかが重要である。	宮崎委員
	この人は障害のある人、この人は障害のない人という分け方は、おかしいと思う。誰にだって何らかの障害はあるし、非常に大きな人、軽い人、少ない人という分け方だろうが、状況によってまた変わるのだから、もう少し丸めた表現がいいと思う。	柴田委員